

進路状況報告

平成27年度入試報告

東大・京大・東工大34名

東大23名で全国公立4位

筑波大57名

進路指導部長 木村 幸彦

平成27年度入試は、数学と理科が新学習指導要領のもとで実施された。過年度生に対しては移行措置がとられたが、昨年度入試での進学率が高かったため、過年度生は大幅な減少となり、センター試験・国公立大ともに志願者数が減少した。

センター試験志願者数は、約55万9千人で、前年度より約1500人の減少であった。国公立大の志願倍率は4・67倍(国立4・26、公立6・27倍)で、前年度の4・78倍よりやや低下し、4年連続の減少となった。本校生の多くが受験する難関大では、一橋大、名古屋大、大阪大が増加、九州大、京都大、東工大、北海道大はやや減少、東北大、東京大、神戸大は微減で全体としては前年並みであった。学部系統別では、理系はすべての系統で減少(特に「薬」「医」)したのに対して、文系では「法」「国際関係」など増加した系統があり、近年継続していた「文低理高」が沈静化した。

大学入試センター試験については、「生物」と「旧物理I」の平均点の差が20点を超えたため、17年ぶりに得点調整が行われた。

「数学II B」「地理B」「地学」「化学」など理系の生徒が多く受験する科目で平均点ダウンが目立った。昨年平均点が過去最低となった「国語」は、20点アップした。本校生の平均点は、文系が665・5点(昨年比+27・1点)、理系が676・3点(昨年比+11・1点)で、ますますの結果であり、例年通り、第一志望(主に難関国立大)に挑戦した生徒が多かった。前述のような入試環境のため、現役生の合格率・進学率は、高まった。

入試結果について、主なものを挙げると以下のようなものである。  
東大23名(新卒15名)  
京大6名(新卒5名)  
東工大2名(新卒1名)  
一橋大3名(新卒1名)  
東北大24名(新卒11名)  
筑波大57名(新卒40名)  
国公立大医学科22名(新卒7名)

東大は昨年度21名、今年度23名と2名増加した。現役生は、文二に1名、文三に2名、理一に7名、理二に5名の計15名が合格し、全国公立高校の中で2番目の合格数であった。また、15名中、女子が6名(文科類2名、理科類4名)であった。地元筑波大は57名(内医学類9名)、東北大は24名が合格し、難関国公立大を目指す姿勢を崩さずによく健闘したといえる。しかしながら、本校をとりまく周囲の環境変化は急速に進んでおり、今後より一層の学習指導・進路指導の充実を図っていききたい。

平成27年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

\*新卒は内数です

Table with 3 columns: University, Total合格者, Total新卒. Lists 27 universities including旭川医科大, 北海道大, etc.

Table with 3 columns: University, Total合格者, Total新卒. Lists 27 universities including山梨大, 信州大, etc., ending with国公立大計 and (うち医学科).

Table with 3 columns: University, Total合格者, Total新卒. Lists 27 private universities including青山学院大, 学習院大, etc., ending with私立大計 and合格者総数.